2 ヴィオレ＝ル＝デュク 『フランス家具精解辞典』カロリング朝からルネサンスまで 全6巻

Viollet-le-Duc. Dictionnaire raisonné du mobilier français de l'époque carlovingienne à la Renaissance. 6 vols. Paris, Ve A. Morel & C^1E, 1872-1875. 24.0×16.0cm 〈757.703-V-1～6〉

Hiler p. 882 Colas 3024 Lipp. 1093

1872年，パリで刊行された全6巻から成るフランス家具辞典，カロリング朝（751—911年）からルネサンス（16世紀）までを扱っている。目次は次のとおりである。

第1巻：第1部家具，史的概要　第2巻：第2部道具，第3部金銀細工，第4部楽器，第5部娯楽用品，第6部器具　第3巻：第7部衣服，宝石，化粧道具についてA-H，第4巻：J-V 第5巻：第8部攻撃･防御用の戦闘兵器についてA-G，第6巻：H-V，付録　中世フランス軍の戦術。

精解と明記されているように，第1巻第1部のアルファベット順に編成されたこの辞典には，建築家である著者の精密な目を通して，多くの図版を伴った細部にまで及ぶ詳しい解説がなされている。続く2部の封建貴族の生活やモラル・習慣から城・家具の製作方法，家具の歴史にまで及ぶ記述は，中世の生活史を知る上で貴重な資料である。第2～6巻は家具に付随する小道具，楽器，衣服，宝石，兵器などに当てられている。

著者ヴィオレ＝ル＝デュク（Eugène Viollet le Duc 1814—1879）は，建築家，作家として知られるが，とりわけ多くの中世の歴史的建築物を修復した中世建築の権威者であった。彼の修復したもののなかで，サント・マドレーヌ寺院（ヴェズレー），ノートルダム寺院（パリ），カルカッソンヌの古い市街地などは特に有名である。また，本書の他に『11世紀から16世紀のフランス建築辞典』Dictionnaire raisonné de l'architecture Française du XIe an XVIe siècle の著書がある。

中世の家具研究において，最も問題点となる資料については，当時までにアレクサンドル・ルノワール（Alexandre Lenoir）がルネサンス期の家具収集を試み，家具のシステマティックな分類を行い，同時に長い間見捨てられていた古い工作方法を研究したのをはじめとして，パリにクリュニイ博物館（Musée de Cluny）が，デュ・ソメラール（Du Sommerard）氏により設立され（1836年），貴重な資料が展示されるようになったとはいえ，16世紀以前の家具は，ヨーロッパに，特にフランスには非常に少ないこと，また一般の生活の中で使用されていた家具類は，ルネサンス期までは保存される習慣がなかったために，ほとんど存在しないこと，などの理由から宗教的建築物や教会に残されたものが主要な資料となった。

本文443頁の他，著者自身によって描かれたものも含む28枚の挿画が挿入されている。（深井）